

☆視 点

2013 年を振り返って

「海外速報」の記事をもとに、この 1 年間を振り返ってみた。

1. 化合織の供給過剰問題

化合織の供給過剰問題は、5 月にバンコクで開催されたアジア化織産業会議でも話題にのぼった。元凶は中国にあるのだが、中国国内でも問題視されており、中国紡織網は、生産能力の急拡大で、中国の化織業界は「生産能力の淘汰」と「業界再編」の試練が必至であると指摘している（海外速報 No. 958）。

こうした悪環境の中、投資がたたり経営危機に陥ったレーヨン最大手の山東海龍は、恒天の傘下となり（No. 947）再建が試みられているが、子会社の新疆海龍化織は破産に至った（No. 976）。

設備過剰が深刻化する一方で、設備拡大は続いている。2013 年は年産 362 万トンのポリエステル F の新增設が計画され（No. 961）、上半期のポリエステル新增設は 255 万トンにのぼった（No. 967）。レーヨンでは、三友が年産 100 万トンへの増設計画を発表（No. 969）、賽得利は年産 5 万トンの新ラインの稼働を開始した（No. 976 囲み）。マクロレベルでは供給過剰の問題は認識されているものの、いざ各論となるとそうではなく、供給過剰になかなか歯止めがかからない。

これに関連して、差別化品への注力も目立った。恒力の極細繊維（No. 959）および高強度ポリエステル F（No. 971）、東南網架の静電気防止・紫外線防止ポリエステル（No. 953）、上海石化の抗菌防臭アクリル（No. 951）、大慶石化の扁平アクリル（No. 963）、銀鷹化織の 3 種類の差別化レーヨン（No. 953）、三友の原着レーヨン（No. 964）、恒天のリヨセル（No. 969）およびモダル（No. 976）などが紹介された。

2. 高性能繊維

（1）炭素繊維

本年は高性能繊維の記事が多く取り上げられ、特に炭素繊維が目立った。新年 1 月 10 日号の冒頭記事は中国の炭素繊維市場の紹介にはじまり（No. 945）、吉林炭素繊維プラットフォームの建設開始（No. 961）、中複神鷹の乾湿式炭素繊維の開発（No. 971）、工業情報化部の炭素繊維発展計画（No. 975）、T800 級の炭素繊維開発への支援（No. 977）など、中国が同繊維の開発に力を入れていることが見て取れる。

CFRPの世界市場は2013年には207億ドル規模に拡大(No.946)、炭素繊維をめぐる企業の動きも活発である。独SGLは、①韓 Samsungと炭素繊維複合材料合弁会社の設立を合意(No.963)、②100%子会社のポルトガル Fisipeからのプリカーサ調達(No.969)、③独のテクニカルテキスタイルメーカーGruschwitzとの提携(No.977)、④英国での新製造ラインの開始(No.976)、⑤3D炭素繊維複合材の実用化(No.968)と活発な動きを見せている。また、航空機会社 Boeingは炭素繊維メーカーHexcelとのマレーシア部品工場を拡張(No.975)するほか、自動車メーカーのBMWと炭素繊維の共同開発で合意した(No.946)。筆者の個人的経験で恐縮だが、過去にGruschwitzを訪問する機会があり、社長のイノベーションに対する熱意に感服した記憶がよみがえり、このほどSGLと提携したとの記事のみて、感慨深いものがあつた。

韓国では暁星が炭素繊維の生産を開始(No.954)、ロシアではDowAksaがロシア国営メーカーと複合材料の生産に向けて覚え書きを締結した(No.949)。なお、海外速報では取り扱っていないが、東レの米Zoltek買収はビッグニュースである。ラージトウ事業に本格参入する。

(2) 高強力繊維

DuPontが米国のパラ系アラミド繊維 *Kevlar* 原着糸の製造ライン増設を発表(No.963)、超高分子量ポリエチレン繊維メーカーのDSMがシンガポールに技術センターを設置(No.947)した以外は、中国での動きが目立った1年であつた。

中国航天科工業集団は高強度アラミド繊維の産業化に成功(No.966)、齊魯石化も超高分子量ポリエチレン繊維の開発に成功したと発表した(No.977)。深圳維納先材商貿はポリイミド繊維の研究開発を進めている(No.968)。製品の水準はまだ低いものと推察されるが、中国が着々ところこの分野の開発を進めていることは留意する必要がある。第12次5カ年計画でも、高性能繊維の開発・発展が重要課題としてあげられている。

3. 主要企業の動向

(1) INVISTA

企業の動きとしては INVISTA が目立った。企業別の記事の件数は同社が最多である。DuPont の流れをくむ有力企業でブランド力もあり、情報発信力およびマスコミでの取り上げかたが異なるのであろう。

ナイロン関係では、①上海のエアバッグ用ナイロン 66 工場を年産 2 万ト超に拡張し (No. 971)、②上海化学工業区に建設予定のナイロン原料のヘキサメチレンジアミン工場 (年産 21.5 万ト規模) では、政府当局の環境影響評価を経て、建設が認可され (No. 946)、③オランダ Rozenburg でナイロンポリマー工場を増設 (No. 950)、④CORDURA ブランドのファブリックを Material ConneXion のライブラリー (Material Library) に出展した。

ポリエステル関係では、ポリエステルメーカー独 Advansa のアパレル向け特殊ポリエステル繊維事業と関連技術を買収することで合意した。これに関連して Advansa が INVISTA から取得していた、ヨーロッパ、中東、アフリカ市場向けの *Coolmax*、*Thermolite* 等の商標の独占使用権が INVISTA に戻された (No. 970)。

バイオ原料関係にも力を入れており、①米 Arzeda とバイオ原料の開発で提携 (No. 949)、英 Ingenza ともバイオ由来化学品の開発で提携することを発表した (No. 972)。

製品分野では、デニム開発に関して、印デニムメーカー Arvind と提携 (No. 946) したほか、オーストリアのレーヨン大手 Lenzing とも提携 (No. 977) した。また、特殊防護服分野の強化を目的に、米国の消防服・難燃衣料メーカー米 Ashburn Hill を買収した (No. 958)。さらには、Higg Index を展開する「Sustainable Apparel Coalition (SAC)」(持続可能なアパレル連合) のメンバーに加わったことも注目される (No. 947)。

(2) Indorama

ポリエステル分野における積極的な M&A および新增設、熱融着繊維の FiberVision 買収による衛材分野への参入でビジネスを拡大している Indorama Ventures Public Company Limited (IVL) であるが、2013 年も積極的な経営姿勢が際立った。同社の 2012 年売上は前年比 6.78 億ドル増の 67.8 億ドルに拡大している (No. 950)。

繊維関係では、①タイで、日本の JNC と合弁会社を設立し、ポリオレフィン系複合繊維 (ES 繊維) を生産 (年産 1.45 万ト) する。また、米 Covington 工場 (Fiber Vision の 100% 子会社) の複合繊維の設備

能力を1.1万ト増強し年産3.4万トに拡大する計画である(No.971)、②インドネシアではファブリック工場を増設、関連会社がウズベキスタンでポリエステル繊維工場を建設する(No.967)

PET樹脂関係でも拡大路線を続け、①インドネシア Purwakarta のPET工場を拡張する予定(No.967)のほか、②米国 Decatur に年産50万ト工場を新設する(No.954)。一方で需給の悪化から、英国 Workington のPET工場(年産16.8万ト)の閉鎖を進めている(No.976)。

粗原料関係の拡充策も継続しており、中東の国有石油企業と提携し、中東にパラキシレン工場を建設する計画を明らかにした(No.955)。

なお、IVLと資本関係はないが、インドの Indorama は、PTA工場(年産125万ト)の建設(No.949)、スパンデックス工場の倍増(年産3万トへ)計画を発表した(No.956)。

(3) その他

欧米系企業の動きとしては、スペインのポリエステルメーカー La Seda de Barcelona(No.962)、フィンランドのレーヨンメーカー Avilon Fibres(旧 Sateri)、イタリアのアクリルSメーカー Montefibre(No.958)など、名門企業の一連の破産・再建問題が報じられた。寂しい限りである。DuPontを前身とする DAK Americas は米 North Carolina のポリエステルS工場を閉鎖する(No.963)。

一方で、オーストリアの Lenzing はレーヨン・リヨセル工場の拡充計画(No.950)、Indorama傘下にはいったアイルランドの Wellman Ireland がポリエステルSの増設計画(No.976)、スペインの Nylstar がナイロン66F工場の増設計画(No.977)をそれぞれ発表した。

米国の Universal Fibers は、カーペット用で DuPont と PTT 繊維(3GT 繊維) Solona で提携(No.976)。米国の Sans Technical Fibers が小幅ながらナイロンFの増設計画を発表した(No.948)。米国ではシェールガス革命を背景に製造業の復活が報道されている。テキスタイルを含む繊維産業でも国内回帰の動きが伝えられており、今後の動向が注目される。

このほか、米国の不織布大手 Polymer Group (PGI)が、英 Fiberweb を買収(No.976ほか)。独 Freudenberg を抜き、売上で世界最大の不織布メーカーとなる。大きなニュースである。東レの韓国ウジンケミカル(旧セハン)の買収も特筆される。

4. ロシアでの合繊等プロジェクト

国別には、ロシアで合繊関係のいくつかの動きがあったのが印象に残った。

①ロシアの JSC Cluster は古くからの繊維産地である Ivanovo にポリエステル S プラントを建設する計画である (No. 941)。②また、ロシア大手の紡織品メーカー MEGA も年産 18 万トンのポリエステル繊維及びチップのプラント建設プロジェクトを検討している (No. 951)。③地元 KTKIvanovo は Ivanovo に PET 樹脂 (年産 10 万トン) およびポリエステル繊維 (同 20 万トン) 工場を建設する (No. 974)。④トルコの Nergis はダゲスタン共和国に糸・ファブリック工場を建設予定で、ロシア Karabanovo にも大規模テキスタイル工場を建設する計画 (No. 971)。⑤テクニカルテキスタイルメーカー大手 Ivanovo Manufactory は、Ivanovo に難燃性合繊ファブリックの製造工場を建設する計画である (No. 966)。

ちなみに、ベラルーシでも、ベラルーシ政府が 5.8 億ユーロを投じ、PTA および PET プラントを新設する計画である。大手化繊メーカーの Mogilev の敷地内に建設する予定で、ベラルーシ政府は Mogilev への投資も検討中である (No. 955)。

ロシアはその資源とともに、市場としても注目されており、スペインの大手 SPA である Inditex (ZARA) (No. 945) やラグジュアリー製品の LVMH (No. 958) などが市場開拓に意欲を示している。

5. 新興国の繊維工場における安全問題・労働条件改善

2013 年 4 月にバングラデシュの Dhaka で縫製工場が崩壊。1,200 人以上の死者が出る大惨事となった。これを受け、縫製工場での安全確保、労働条件改善要請の動きが強まった。

上記事故の後、米国の小売大手 Wal-Mart に対して、投資家や労働者人権団体などが労働条件などを守るように、直接的に発注先である供給業者や縫製工場に働きかけ、監督、指導すべきであるとの抗議が高まった (No. 946)。英国の小売大手 Tesco は、バングラデシュで安全上の重大な問題がある縫製工場からの衣料品の調達を停止した

(No. 962)。同国では、縫製品は主要輸出品として成長を続け、2012 年の輸出は、布帛製品とニット製品が併せて 191 億ドルと、輸出全体の約 8 割を占めた (No. 968)。縫製産業は同国の主要産業であるだけに、政府も対策に躍起で、安全上の理由から Dhaka で 16 工場、Chittagong で 2 工場、計 18 の縫製工場を閉鎖した (No. 958)。国際的に注目を

集めるところとなり、ILO（国際労働機関）は11月、「 Bangladesh に持続可能な成長の道を提示」という報告書を発表した（No. 976）。

カンボジアでは、縫製工場で働く従業員の栄養問題が深刻化しているというレポートが発表された（No. 973）。今年に入ってストライキが頻発し、労働条件改善の要求が強まり（No. 964）、最低賃金の水準でも非難の声が高まっている（No. 958）。労働組合と雇用者間の賃金交渉が行き詰まったのを受けて、政府が仲裁に乗り出す場面もあった（No. 951）。

縫製工場の労働条件は国際的な関心を呼び、IAF（国際アパレル連盟）は、国際的な責任に基づいた労働環境改善アクションプランの実施を表明した（No. 958）。また、欧州の80のバイヤーは、Bangladesh の縫製工場における安全確保を目的に、「統一行動基準」に従って努力していくことで合意した（No. 966）。

（業務調査グループ 杉原）

以上